

2) 動力脱穀機

(1) 用 途

刈り取った後の稲麦の脱穀に使用する。

バインダーとの組合わせ、わらを利用する場合や小規模農家に適する。また、脱穀部を取外して運搬車として利用できるようなっているものもある。

(2) 構 造

自動脱穀機には自走式と定置式とがあるが、ここでは、自走式を中心に説明する。構造的は、自脱型コンバインの刈取装置や引起し搬送装置を除いたもので、自走自脱機やハーベスターとも呼ばれる。

エンジン、走行部、脱穀部、選別部などからなる。エンジンは、3.5～8.5馬力程度のカソリン又はディーゼル・エンジンが使用され、この動力は、ミッションを経て、走行部、こぎ胴、フィードチェーン、揺動軸、ファン軸などへ伝達される。走行部は、クローラー式のほか、小型軽量型では車輪式（2輪＋尾輪）のものがある。

フィードチェーンによりこぎ室に供給された穀稈は、こぎ胴で脱穀されて揺動板上へ落下し、そこで選別されながら、前方へ送られる。選別網上で吸引ファンにより風選別された精粒は1番口へ落下しコンベアで穀粒取出口へ送られ、また、未処理粒は2番口へ落下して再度こぎ室へ送られる。一方、わら屑などは、吸引ファンにより機外へ排出される。また、脱穀済みのわらは排わら装置から排出される。

なお、定置式は、走行部がなく、エンジン又はモータで駆動し、長尺スロワーなどを備えていること以外は自走式とはほぼ同じである。

(3) 取扱い上の留意点

能率よく作業するため、バインダー等で刈り取った穀稈は数カ所に集めて置く。こぎ胴回転数は、稲麦とも同じものと、変速を行うものとがあるので留意する。

(4) 安全作業のポイント

取扱説明書や安全表示ラベルを良く読み理

解する。

フィードチェーン等への巻きまれに注意する。

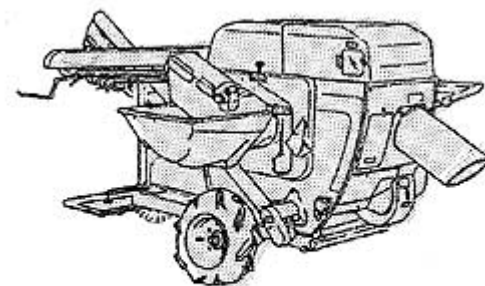
点検調整を行う時は、必ずエンジンと止めてから行う。

あぜ越えや囲場の出入りなどでは低速で道路・あぜに直角に行う。

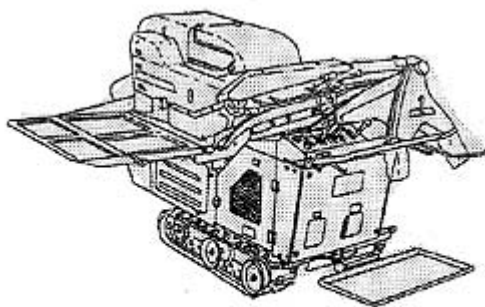
バックする時は、障害物との挟まれに注意する。

籾受け台などに人を乗せない。

トラックへの積降しにはあゆみ板を使用し、途中で変速操作などをしない。



自動脱穀機（自走式・車輪式）



自動脱穀機（自走式・クローラー式）